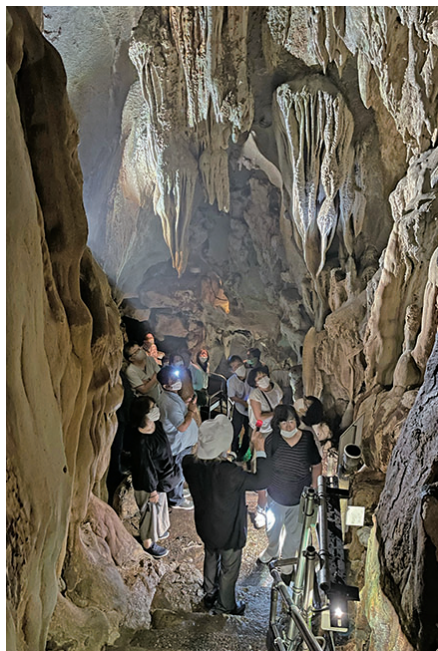




高知大学出前公開講座in香美市



▲場所：龍河洞洞内

第1回講座（6月18日）
前半『石灰岩の洞（鍾乳洞）はどのようにしてできるのか』
講師：高知大学海洋コア総合研究センター客員教授 公文 富士夫さん

龍河洞は石灰岩でできた鍾乳洞で、石灰岩は水に溶けやすいという性質があります。まず、石灰岩台地の地下に小さなトンネルができ、地下水がそのトンネルを流れ、水平に広がったトンネルは拡大し、より大きな通路となった後、地殻変動によって台地が隆起すると、水がなくなり鍾乳洞ができることなど、図と画像を交え、分かりやすく説明していただきました。

後半『鍾乳石・石筍（せきじゅん）が記録する長期間の気候変動』
講師：高知大学海洋コア総合研究センター特任助教 奥村 知世さん

令和3年度から高知大による石筍採取と分析が始まっており、これは年代測定を行い、龍河洞の形成時期を特定するとともに、化学分析により過去の気候変動を知り、取得したデータから将来の気候変動予測に繋げることが可能となります。この化学分析の方法についても詳しく語られました。



▲場所：龍河洞会場

第2回講座（6月25日）『龍河洞洞穴遺跡の時代』
講師：高知大学人文社会科学部准教授 宮里 修さん

龍河洞洞穴遺跡が成立した背景には、①人口増加②鉄器出現③長距離交易があったと考えられています。高知県内には他にもいくつかの洞穴遺跡、岩陰遺跡があり、それらを紹介しながら、平地での稲作が定着し人口増加と集落が拡大し始めた時期に、なぜ洞穴に弥生時代の人は移り住んだのかを、3つの視点を元にお話いただきました。

龍河洞洞穴遺跡と同時期に機能した高知県内の岩陰遺跡および洞穴遺跡・高地性集落も紹介しながら、当時は希少な素材だった鉄の流通に関わった人々の存在と、遺跡から出土する「ある遺物」に注目し、弥生時代の人々の生活の一端について説明されました。



▲場所：猪野々集会所

『パンの会』は、明治末期の耽美主義的文芸運動のことを言い、美術と文学の交流を行い、新しい近代文芸を育てようという木下杢太郎の発議により始まりました。『パンの会』の『パン』は、ギリシア神話の牧羊神（または半獣神）の名前です。吉井勇・石川啄木・北原白秋などの歌人、永井荷風や谷崎潤一郎などの小説家や画家、劇作家たちが集う会として賑わいました。

また、当時、小説家としては無名だった谷崎潤一郎は『パンの会』で初めて敬愛する永井荷風と出会います。これがきっかけとなり、文壇デビューに至ったことなどをお話いただきました。

※各講義の詳しい内容は、香美市HPをご覧ください。⇒<https://www.city.kami.lg.jp/soshiki/50/kokaikoza.html>



香美市婦人会合併15周年 ～ホテルの里～歌碑除幕式

香美市婦人会は、香美市合併後、連合としての活動から15周年を迎えました。

この節目を記念として、香美市内に生息する蛍の自然環境保護の啓発、子どもたちに故郷を思う心を忘れないようにと願い、ほたるの里復興への思いと、持続可能な地域づくりを目指し、7月16日に、新改地区農山村コミュニティセンター駐車場に、関係機関等の協力により、歌碑が設置されました。



▲歌碑の上段のホテル



治療奉仕団による
無料マッサージ

7月13日、香美市土佐山田町赤十字奉仕団主催の地域貢献活動として、香美市立中央公民館で高知県立盲学校の生徒と教員が治療奉仕団として無料で受けられるマッサージを行いました。

マッサージを受けた人からは、本格的なマッサージで体が軽くなった、肩と腰の痛みが楽になったとの声が聞かれました。



香北中学校×美良布分団
シャッターアート

7月26日、香北中学校美術部の皆さんが中心となり、香美市消防団美良布分団屯所で、美良布分団員の方々とともにシャッターアートに挑戦しました。

子ども達は服にペンキを付けながらも、思い思いに筆を走らせていました。完成させようと協力している姿が印象的でした。

親子で楽しむ木のスプーン づくり

7月24日、緑の募金を活用して、香美市内の小学校1年生から3年生とその保護者を対象とした「夏休み・親子スプーンづくり講座」が中央公民館で開催されました。

木に関するクイズを楽しんだ後、香美市で育った木を使ったスプーンを一人1本作りました。桜やアラカシ、イヌマキ等、たくさんの木の中から好きな木を選び、思い思いの形にスプーンを削った後、ザラザラした感触の粗い木のスプーンを肌触りが良くなるまで紙やすりを用いて磨きました。

参加者は木の香る会場で、五感を使う木に関する様々なクイズに協力して取り組んだり、各々が夢中でスプーンを削ったりと、親子みんなで和気あいあいと楽しんでいました。

